



第2号 令和3年2月20日発行

 **社会福祉法人 和歌山つくし会**

本部 和歌山県和歌山市吉礼字八ツ井486番地の1

TEL : 073-488-7470

FAX : 073-478-1900

事務局 和歌山県岩出市中迫665

TEL : 0736-69-1772

FAX : 0736-69-5251

特集 過去から未来へ

伝統を守りつつ、まごころを大切に、そしてより近代的な法人として！



社会福祉法人 和歌山つくし会 理念



「つくす」



初代理事長 谷本千鶴先生の遺志を引き継ぎ、世の子どもたち、障がいのある方、社会的弱者のためにつくします

基本方針

1. 人権尊重（子どもたちや利用者の視点を忘れずに）
2. 地域貢献（職員一人ひとりの責務として）
3. サービスの質の向上（医療・福祉サービスの向上に努めます）



和歌山つくし会の未来とその理念 「つくす」ということ

社会福祉法人和歌山つくし会

理事長 谷本 美佐子

昨年はコロナで始まり、コロナで終わるという大変苦しく不安な年でした。

その猛威は帝政ローマ時代や、中世ヨーロッパで蔓延したペストや第一次世界大戦中のスペイン風邪などによく比較して語られています。アメリカ、ヨーロッパなどではすでにワクチン接種が始まっていますが、日本では第3波に襲われたまま、不安な令和3年の出発となりました。

コロナだけではなく、現在副次的に発生している第2、第3の悲劇。経済の悪化による失業、自殺者や家庭内暴力の増加、最近では特に弱い立場にある女性の自殺率が上昇しています。

日本の自殺者の数は先進国の中でも人口に対する割合では群を抜いており、この複雑な社会で自分を見失わずに生きるための精神的ケア、そのための一般的な理解、福祉や支援から取り残された人々、また根本的な教育の在り方等、現在この国が抱えている課題は無数にあり、単純に「がんばりましょう」という言葉の掛け合いだけでは解決できないレベルに達しています。

その中で乳児院、医療・福祉センター、幼保園、院内保育所を擁する和歌山つくし会は正に様々な課題に正面から取り組み、地域のために働く社会福祉法人の一つとして、その役割は大変重要なものであります。

令和元年後半から今日まで和歌山つくし会にはいろいろな変化がありましたが、令和元年末には執行部が変わり、まず「法令を守り、ガバナンスを重視する」という目標を掲げ、内外により開かれた近代的な法人であることを目指しています。そして、この法人が心をより一つにし、法人としての確固たる人格を備えるために、もう一歩進んで今回理念の改定をいたします。

キーワードは「つくす」。それは和歌山つくし会設立当初からの精神であり、「つくし会」の名前の由来にもなっている言葉です。

それでは、「つくす」とは一体何でしょうか？ 私たちはどうすればよいのですか？ ひたすら自己犠牲の精神、「おしん」の世界ですか？ いいえ、そうではありません。「つくす」とは、入所者のみなさん、患者のみなさん、園児とその保護者のみなさんのために心を込めて一生懸命にケアや仕事をし、対応のできる法人であること。さらに一人ひとりが力をつくし、限りなく解釈を広げ、自分にとって「つくす」とはどういうことかを問うことも出来る、大変意味深い言葉です。そのシンプルで奥深い和歌山つくし会の原点の精神にもう一度戻って皆で心一つにし、未来を見据えたい。そしてこの難しい時代を乗り越えていきたい。新しい理念のもとに！



初代理事長 谷本千鶴先生の足跡

常務理事 森 下 宣 明

今はもう、千鶴先生のことを語れる方は少なくなりました。
つくし会の沿革誌を紐解いて、当時を振り返り、千鶴先生の足跡を辿ってみたいと思います。

昭和29年10月、有志4人（谷本千鶴氏、大森正恵氏、湯口美智氏、高垣たか子氏）で、和歌山市城北地区において私設の保育所を開設。（参考1）

当時の世相はというと、戦後復興により、巷にあふれていた孤児、浮浪児対策も一段落し、救貧対策も終わりつつあったが、千鶴先生が和歌山市中之島で夫の紀次郎先生（つくし会2代、4代理事長）と営んでいた谷本産婦人科医院には、明日の暮らしにも事欠き、出産しても、すぐに就労しなければならない母親たちの受診が後を絶たなかった。

その様子を見かねた千鶴先生が、上記の3人の有志に相談し、和歌山市城北地区の片隅で私設保育所を開設し、子どもたちの受け入れを始めた。

子どもたちを受け入れ始めて、その背景に驚愕するとともに、運営の大変さに気づき、当時の高垣善一和歌山市長に相談するとともに、自分でも児童福祉法等を猛勉強し、昭和31年10月1日、和歌山市立乳児院（定員30名）の開園にこぎつけた。（参考2）

一方、昭和30年代前半は、乳児の死亡率も高く、乳児院の側に墓地が必要であるというようなことも言われていた。

昭和31年の経済白書では「もはや戦後ではない」と宣言し、「神武景気」「岩戸景気」ともいわれる好景気が続き、昭和39年の東京オリンピックの開催など、経済成長は社会にも大きな影響をもたらした。そのような好景気により乳児院の制度も改善され、乳児院の子ども の身体発育面は、ほぼ良好となったが、精神発達面については不十分なところが多く、このためホスピタリズム論議が活発になり、施設入所児はホスピタリズムの代名詞のように言われた。

千鶴先生が全国乳児福祉協議会（以下、「全乳協」という。）に常任委員として参画したのは、昭和38年度からですが、すぐに予算対策委員となり、重症心身障害児施設の草分けとなる小林提樹先生や大島一良先生などとの交流を重ね、今後の社会福祉の動向を把握し、障害児支援へと突き進んでいくことになりました。（参考3）

昭和41年3月、財団法人和歌山つくし会設立（昭和44年12月24日解散）

昭和43年8月1日、肢体不自由児施設「岩出整肢園」開設（定員50名）

昭和44年12月25日、社会福祉法人和歌山つくし会設立

昭和45年6月4日、岩出整肢園を重症心身障害児施設に変更

昭和48年8月1日、和歌山乳児院開設（定員40名）（和歌山市立乳児院廃園）

昭和49年4月1日、つくし保育所開設（昭和50年5月31日廃止）

昭和50年6月1日、和歌山市立広瀬保育所運営委託開始

昭和51年4月1日、つくし保育所開設

昭和51年7月1日、桃山療護園開設（定員50名）

昭和55年6月1日、岩出療育園第2病棟増築（定員80名）

この間の15年間は、多くの方々の協力はあったと思いますが、当初の志にのっとり、まさに怒涛の勢いで、子どもたちのために身を尽くしてこられました。

毎日複数の施設の間を飛び回り、診察業務を行い、その傍らで、新たな計画を企画し、困難な交渉に立ち向かっていました。

財政的には、まさに綱渡りの状況ではあったが、紀次郎先生の理解と岩出整肢園、岩出療育園、桃山療護園の外来患者が戸外まであふれるぐらい盛況をきたし、その収入で賄うことが出来た。（その構図は現在の各施設の建て替えにも反映されている。）

昭和57年12月11日、日頃の激務がたたわり、和歌山市小倉に重症心身障害児施設「小倉療育園」の開設準備を進めている最中に急逝された。（享年満64歳）

生前は、いつも微笑を絶やさず、園児、入所児、患者、職員のことを一心に気遣い、慈愛に満ち溢れた、その姿は没後40年近くが経った今日でも「社会福祉法人和歌山つくし会」の心の支柱として生き続けています。

「世の子どもたちの幸せのために、もっと身を尽くしたい」

参考1

大森正恵氏：後に児童養護施設、和歌山市旭学園を創設
湯口美智氏：林事務局長の叔母（つくし会3代理事長）
高垣たか子氏：当時の高垣善一和歌山市長夫人

参考2

和歌山県には海南市立乳児院（昭和23年5月16日開園）と田辺市立双葉乳児院（昭和26年7月19日開園）の2か所の乳児院があったが、入所依頼は後を絶たず、和歌山市立乳児院も2年後には定員40名に増員した。

参考3

小林提樹先生：島田療育園（現島田療育センター）初代院長
大島一良先生：東京都立府中療育センター元院長（大島分類）



これからの重症児者施設

つくし医療・福祉センター

センター長 林 龍太郎

新型コロナウイルス感染の不安の中、Go to キャンペーンで経済活動が活発化する中で、入所施設では日々緊張しながら、重症児者の日常生活を支援するために職員一同、取り組んでいます。さて、平成31年3月末における医療型障害児施設（肢体不自由を含むは全国に268施設あり、入所児者数が21,424人（18歳未満3,283人、18歳以上18,141人）となっています。

これからの重症児施設の未来について、僕なりの方向を書かせていただきます。

今から10数年前、重症児施設は措置制度から契約制度に移行しました。これは、高齢者の介護保険からスタートし、障がい事業も少し遅れて、給付制度に大きく変わりました。特に、措置から契約に代わり「応益負担」が生じ、障がい児者の負担増につながった経緯もありましたが、国は施設中心の療育から在宅支援へと大きく舵を切り、一部の方々からは、施設入所は人権侵害との声も出ており、僕としては、施設は最後の砦と考えており、多くの障がい児者の方々とも接し、保護者の方々にも接してきましたが、障がい児者の家族の方々は、親なき後を心配されていることや、強度行動障がい児者の家族の方々からは、心の休める日がないとの切実なお話も聞かせていただいています。

現在、少子高齢化がますます進んでいく半面、医療が進歩し、今までは亡くなられた子どもたちの命が救われていくと同時に医療的ケアの必要な方々は微増していくと考えています。

また、近年、発達障害の方々の増加も増えてきております、そのため、外来診療や相談支援をとおして、障がい児者と向き合っていこうと思います。

最後になりますが、初代理事長 谷本千鶴先生が、職員会議などで、「入所されている障がい児者へは家族のように「つくし」であげてください。と言われていました。当時は、入所支援中心でありましたが、これからは地域の障がい児者の方々にも「つくせる」ような施設でありたいと思います。

これからも、医療型障害児施設、療養介護施設の果たすべき役割を当事者、家族、行政、日本重症心身障害福祉協会に所属する施設で協議し、医療的ケア児、発達障がい児者と家族が安心して生活ができるような地域支援に取り組んでいきたいと思っています。

認定子ども園 広瀬幼保園の将来像

By Team 広瀬

今後ますます少子化が進むことで、認定こども園の存在が危惧されています。そこで、Team 広瀬（広瀬幼保園職員）は、広瀬幼保園の将来像について「職員の待遇等」、「保護者・児童のニーズ等」の2つの面から考えてみました。まず「職員の待遇等」では、残業がなく、休憩・勤務時間も守られ、有給休暇も取得しやすいなどの理由から働きやすい環境であると思う職員が多数いる中、正規・契約職員の待遇に差がない、非常勤職員にも昇給・賞与制度を、また、健康診断に婦人科検診もしくは補助制度を取り入れて欲しいなどの意見がありました。次に「保護者・児童のニーズ等」では、一斉メール送信、写真はネットやスマホからの購入に変更する等ICT化の活用、保育内容では延長保育の充実、休日保育の実施等、また習い事の送迎が出来ない保護者のために英会話、習字、ダンス、パソコンを取り入れる等様々な意見がありました。

そこで、Team広瀬は次のような施策を講じることも方法の一つではないかと考えました。まず、快適な職場環境はより良い保育に繋がることから、「職員の待遇等」特に「同一労働・同一賃金」に関しては、社会保険労務士等を交え、法人全体の問題として早急に解決すること、また職員の負担軽減のICT化の活用はできる限り進めていくことが必要である。次に「保護者・児童のニーズ等」については、延長保育等保育内容の充実が保護者支援を重点的に行うことで少子化に歯止めをかける施策であると考えます。

しかし、「働き方改革」を進める中、この施策を充実していくことや英会話など新たな保育内容を取り入れることは、親子で触れ合う時間や子どもがのびのびと自由にできる時間が少なくなり、子どもの保育教育に本当に良いことなのか疑問に思います。このことから、新たな保育内容の取り入れは行わず、これまでどおり「立腰教育」「漢字仮名交じり絵本教育」を継続していくことは、創造・集中・暗記力を養い、人を思いやる大切さや素晴らしさを培うことができるなど素晴らしいことと考えました。また、令和2年10月10日付け朝日新聞に掲載された記事、「保育の『質』の確保 保育教諭配置基準を1歳児6対1→3対1へ」を採用するなどオリジナリティの発揮、所謂「広瀬スタイル」を確立することが必要ではないかと考えます。保育教諭の確保という大きな問題がありますが、広瀬幼保園は立地条件の良さが備わっているため、保育の『質』の確保が加わることで、「より選ばれる園」になると考えます。今後もアンテナを高く掲げ、情報収集を行うとともに「働き方改革」「職員の処遇等」「保護者・児童のニーズ等」の動向を見据え、子ども、保護者、職員にとってより良い施策を考えてまいります。 *Fine*





事業所内保育所として

つくしの里こども園

園長 溝浦 美智子

今回はつくしの里こども園の紹介をさせていただきます。

平成24年から事業所内託児所としてつくし医療・福祉センターや和歌山乳児院の職員の子どもさんが来られていましたが、平成27年子育て支援法に基づき、岩出市より地域型保育事業を認可され、事業所内の子どもさん9名、地域の子どもさん10名、合計19名の0歳児から3歳未満児までの小規模保育所A型（保育所と同様職員全員保育士資格有）でスタートしました。4月は事業所内の子どもさん9名でしたが、5月より地域の子どもさんも受け入れ、毎月のように新入園児が増え、年末には定数を超える20名になりました。また、28年度には更に定員を30名に増員して欲しいとの依頼を受け、現在に至っております。

こども園の特徴として、月曜日から土曜日までは一般の保育所と同じですが、日曜日も平日と変わらず開園しているというところです。

また、保育時間は平日午前7時30分から午後7時まで、土日は午前7時30分から午後6時30分まで保育をさせて頂いております。日曜日にお仕事のある方も安心して勤務して頂けます。休園日は、祝祭日、年末年始5日間、年度末（3月31日）となっておりますので保護者の方々のニーズに合った形で保育を実施しております。

また、3歳児になったらこども園を卒業して、保護者の希望する幼稚園や認定こども園、保育所等に転園という形で進級されます。ちなみに上岩出保育所は受け皿としての連携施設になっています。

こども園の保育方針は家庭的な雰囲気の中で、子ども一人ひとりが安心して過ごし、発達年齢にあったきめ細かい保育・教育を実施し、将来において伸びる芽の基礎を育てます。

目指す子ども像は、明るくのびのび活動する子ども・いろいろなことに興味を持ち挑戦する子ども・思いやりのある子どもになっていただくように日々の保育に力を入れています。

また、日々の保育の中にも、リズムや楽器を使ってのリトミック遊びやボランティアによる絵本の読み聞かせなど、色んな事を経験してもらっています。

その他、当園では一時預かり事業を実施しており、保育所等を利用している、いないにかかわらず、保護者が一時的にお子さんの保育を必要とするようになった場合、そのお子さんをお預かりして保育をする事業です。日曜日も行っていて、利用者も年々増加しています。

こういった形で、つくし会職員の方々や地域の方々にも利用して頂き、より地域に根付いていきたいと思っております。

これから益々事業所内保育を利用していただくために職員一同保育に邁進してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。



つくしっ子インタビュー！

今回はつくし・医療福祉センターの薬局長 井畑伸英さんにインタビューに参りました。薬剤師さん達は普段調剤室でお仕事をされていらっしゃるのですが、お目にかかる機会は院内でもあまり多くないような気がします。

薬剤師さんたちはどのような一日を送っておられるのでしょうか、またそのお仕事のやりがいや課題について、うかがって参りたいと思います。

1. 井畑さんは、どんなきっかけで、つくし会のお仕事を始められたのでしょうか？

W：私は32年間公立那賀病院に勤務しておりまして、定年後にこちらからお話を頂き、前任の理事長さんの面接で、一般病院で培われた技術を、ここで活かしてほしいとのことで、重心施設は初めての経験でしたが来させていただくことになりました。H28年のことです。

2. 一般病院との違いはどのようなものですか？

W：5年前に電子カルテが導入されましたが、私が来た時点では、すでに1年が経っておりまして。私の目から見ますとシステムの運用に若干不具合が見られ、微調整が必要かと思われました。看護部の業務では、支障はなかったようですが、薬剤部、お薬などの運用に関しては少し遅れているように見受けられました。

3. その後の改善については如何でしょうか？

W：どのように改善していくかという部分で、自分の持っていたノウハウを使わせて頂きました。スケジュール的には上手くいっているように思います。

4. 薬剤師さんたちは、普段薬剤部にいらっしゃるのですが、あまりお会いする機会がないですね。調剤以外のお仕事内容はどのようなもののでしょうか？

W：薬の管理、情報、購入や在庫管理も含まれます。以前は電話で発注していましたが、今ではオンラインで発注するようになったことも在庫管理しやすくなった理由の一つです。薬には有効期限があり、危険管理も必要です。最近はデータが反映されるのでかなり効率的になりました。薬の日々の情報管理、変化、弊害等を把握し、ドクター達に副作用について情報を提供することも大切です。利用者さんたちは入所されているので具合が悪くなった時に他の病院で薬が処方されることもあります。その薬をフィードバックすることも大切です。

5. それではかなりお忙しいですね？

W：慢性疾患の方が多いため薬の内容はそんなに変わらないのですが、2週間単位で調剤をしています。同じ薬が慢性的に使われていると効きが悪くなったりすることがあります。そのあたりはドクター達もよくご存じなので、問い合わせがあれば減量や変更のお話もさせて頂いています。

6. どんな時にやりがいを感じておられますか？

また今後課題と感じられることや悩みなどはありますか？

W：私も2名の薬剤師たちもとてもやりがいを感じております。ただ、お薬を作るにしても、発注するにしても、もう少し改善の余地があるのではと思います。ただ、コストがかかることでもあるので今できることを探っていきたいです。

7. 薬剤師の有資格者は女性の方が多いように思われますが、家庭を持っている女性に対してのフォローやサポートはどうでしょうか？ 子育て中の女性にとって働きやすい職場でしょうか？

W：以前の職場でもそうでしたが、女性の方の休日スケジュールを優先的にとって頂くようにしています。有給消化もなるべくするように心がけていますが、3人で円滑に行っていると思います。

8. 井畑さんのサポートでスケジュールも円滑という事ですね、有難うございます。

ところで、つくし会の今後について、何か薬剤部からご提案はありますか？

W：つくし会の今後については、電子システムの課題が残っていますね。最近のシステムではドクターの処方入力がカレンダーに沿って出来る、というのが電子カルテの有力なところなのですが、現在こちらのシステムではまだカレンダー上の入力ができない形になっています。そこが改善されればドクター側も、看護側も、もっと使いやすくなると思います。

9. それはシステム採用時のコスト的な問題だったのかも知れませんね。

現在のバージョンからほかのメーカーに変更することは難しいと思われませんが、将来の検討事項にさせていただきます。その他にご意見等ございませんか？

W：つくし会では皆さん各部門ともに、とても頑張っていると思いますので、特に意見はありません。いつも皆さんが一生懸命されている姿を目にしております。

10. オフの時はどんなことをされていますか？

W：5人の孫がおりますので、彼らと過ごす時間、その成長が楽しみです。一番上は中2ですが、将来海外ボランティアに行きたいようで、現在英語を一生懸命に勉強しています。

11. それは楽しみですね。ところで井畑さんはなぜ薬剤師の道を選ばれたのですか？

W：大学受験の時に薬学部と建築学部のどちらを選ぶか迷いましたが、両方合格したので薬学のほうを選びました。その後勉強、就職してやはりこちらの方が自分に合っていたと思いました。

井畑さん、色々参考になるお話をありがとうございました。今日は初めて薬剤部に入らせて頂きましたが、温厚な笑顔と信頼のおけるお人柄がとても頼もしく感じられ、いつまでもお話を続けていたくなりました。これからも和歌山つくし会をどうぞよろしく願いいたします。

連載 第2回 「フォスタリング」

里親支援センターなでしこ

センター長 森 下 宣 明

今回は、紀北里親支援連絡会について、簡単に説明します。

令和2年9月30日、和歌山市北コミセンにおいて、和歌山県子ども・女性・障害者相談センターの管轄の19市町の関係者と民生委員・児童委員協議会の関係者が出席し、紀北里親支援連絡会の発足式を行いました。これは、平成31年1月に、里親支援センター「ほっと」が中心となり、紀南児童相談所の管轄の11市町村の代表等により発足した紀南里親支援連絡会を紀北でも実施するという県子ども未来課の依頼を受けて、里親支援センター「なでしこ」が事務局を請け負い実施したものです。

この会の目的は、市町村が主体的に関わり、里親制度の理解を深め、各々の市町村で新規の里親を育成し、社会的養護の必要な家庭が発生したら、各々の市町村内でショートステイや一時保護を里親家庭に委託することにより、子どもたちが実家庭に近いところで安心して養育が受けられる体制を構築することにあります。

もちろん、虐待等により実親から離さざるを得ない場合は、児童相談所附設の一時保護所で保護することも必要です。普段からの地域の見守りを通じて、子どもたちの変化を見逃すことなく、初期の段階で対応することが求められます。

初期対応で活用できる資源として、乳児院や児童養護施設で行っているショートステイを利用することも、育児疲れの軽減に役立っていますが、令和3年4月1日からは、市町村が直接、里親家庭と契約し、ショートステイを実施することが出来るようになりました。そのためには、市町村が安心して契約することが出来る里親家庭を自前で養成することが急務です。そのためのお手伝いを「なでしこ」がいたします。現在、登録している里親家庭だけでなく、市町村と協力して、新規の里親家庭を開拓します。

国は、令和3年度概算要求で、フォスタリング機関に市町村連携職員の加算を要求しています。和歌山県が紀南と紀北で実施している里親支援連絡会が正しくその役割を果たすと思います。国のモデルケースとして、和歌山県も予算化することを望みます。

平成22年から実施している里親支援センター「なでしこ」では、養子縁組と養育里親の支援を総合的に行ってきました。少ない人員をやりくりしながら、里親委託された子どもたちを中心とする里親家庭の様々な悩みの相談に乗り、児童相談所と里親家庭の橋渡しの役割も担ってきました。

現在も補助事業として県のシーリング（5%の予算カット）の対象になっている不安定な財政状況ですが、「なでしこ」に相談できて良かったという里親さんの声に答えるために、日々、東奔西走しています。

和歌山つくし会の職員の皆さんも、是非、養育里親になってください。興味を持たれた方は、一度、是非、なでしこのHPをご覧ください。連絡をお待ちしています。



つくし手話サークルの過去、現在、未来

多機能型福祉事業所 つくしの里

管理者 瀨田拓也

まず私の耳の紹介を簡単にさせていただきます。私は生まれつき耳が不自由で3歳まで言葉を知らなかったそうです。障害者手帳一種2級で両耳とも120db以上の為に機械で計測できない最重度難聴です。筆談や読唇術（理解度50%）または手話（理解度90%）を使わないと理解ができません。

こういう私ですが、近所の友達と同じ小学校に入学することができ中、高、大学と進学しました。大学で出会った一人の重度難聴の女性との出会いがきっかけで初めて手話を覚えました。当時手話を使うことに利便性や必要性を感じず、抵抗を抱いていた自分を変えてくれた大きな出来事のひとつです。

そして9年後の1999年（平成11年）、前身の岩出療育園に入職しました。当時、利用者のコミュニケーションツールと言えはトーキングエイドという機器でした。列挙されている50音のひらがなを一文字ずつ押して文を作り、読み上げボタンを押すと機器が読み上げてくれるという文明の利器です。ところがひらがなを半分くらい読める利用者が一人だけというなんとも寂しい状況でした。「利用者のことをもっと知りたい!」「他の利用者もコミュニケーションできる何かを・・・」と思ったのです。日頃私たちが目にしているシンボルであるPIC（Pictogram Ideogram Communication）を取り入れたりと試行錯誤したのを覚えています。結局、『いつどんな時も気軽に手ぶらで』というスタンスを求めてたどり着いたのが手話（Hand Sign）でした。

何人かの利用者には好評だったので、私だけでなく他の職員にも利用者とのコミュニケーションを取っていただきたいという想いと私とのコミュニケーションの一助にもなる。という一石二鳥の思いで、2000年（平成12年）2月22日（私が覚えやすいようにこの日程にした）に『つくし手話サークル』を立ち上げました。手話がTVドラマなどでブームだったピーク時は利用者14名、職員25名ほどで、2008年（平成20年）1月につくし医療福祉センターになってからは地域に広げ、お母さまや子供たちなど延べ20名ほどの方に利用していただいたと思います。

2016年（平成28年）に手話サークルを廃止するまでの16年間、活動の中に手話グループを取り入れ伝承行事で手話コーラス。毎年行われるスペシャルコンサートや和歌山ビッグ愛の大ホールで行われる紀の国きらきらコンサートにも何度か参加しました。大勢の観客の前で披露したことで利用者も自信になったと思います。利用者、職員共に一丸となって取り組んだビッグイベントは私にとって本当に忘れられない思い出となっています。その写真や動画は各療育棟にあると思います。

手話サークルが廃止してから5年が経った今、独学で手話を学んでくれている利用者が一人居ます。他に再び手話を学びたい利用者も居ます。久しぶりに手話で歌をやると笑顔を見せてくれる利用者もいます。こうした姿を見るたびに、やってきて良かったなあをつくづく思います。

これからの新しい風の吹き方って何だろう？利用者が主体となって手話がコミュニケーションの一つとなり、活動の一つとなっていけたらなあと思います。

つくしっ子ニュース！！ 叙勲受章者発表！

50年以上の歴史のある和歌山つくし会ではこれまでに実に多くの優秀な職員さんたちが表彰されています。国から功績のあった人に与えられる褒章の授与、社会福祉功労者に与えられる厚生労働大臣賞、県知事から地域の社会福祉に貢献した人に送られる白梅賞などです。

2020年度の栄えある受賞者さん2名をご紹介します。



令和2年 瑞宝単光章授章

多機能型福祉事業所 つくしの里

児童発達支援管理責任者 **小西 守美子**

令和2年度秋の叙勲に際しまして瑞宝単光章を拝受させて頂きました。

このような身に余る栄ある賞を頂くことができましたのも、理事長、センター長、院長、総務部長をはじめ職員の方々、多くの皆様のご指導と温かいご支援の賜物と深く感謝しております。

昭和55年につくし保育所に入職以来、岩出療育園、桃山療護園、つくし医療・福祉センター、つくしの里、今日まで40年、保育士そしてサービス管理責任者、児童発達支援管理責任者として重症心身障害児・者の施設やデイサービスに携わってまいりました。

長い年月、現在の職場にいたるまで多くの先輩、上司や同僚の皆さまに支えられここまで勤めることができました。

勤務している中では、嬉しいこと楽しいこともたくさんあり、辛いこともありましたが利用者の笑顔で癒され幸せな気持ちにさせて頂きました。今後もこの賞に恥じることなく感謝の気持ちを忘れずに、より一層利用者、家族の皆様信頼されるように努めて参りたいと思います。

今後も皆様方には変わらずのご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、御礼の言葉とさせて頂きます。



令和2年 和歌山県知事賞 白梅賞授章

和歌山乳児院

乳児部主任 **長谷 ノリ子**

この度は、和歌山県白梅賞という栄えある賞を頂きましたこと、とても栄誉のあることと感動しています。この栄誉は私個人の力ではなく、これまでに自分を指導し育てて頂いた先輩、自分を支えてくださった同僚のお陰であると実感しております。

平成4年3月より和歌山乳児院に就職し28年、乳幼児の養育に一日24時間携わり、思い返せばあっという間で月日が経つことの速さには驚いています。今後もこれに慢心することなく先輩、同僚の皆様のお力添えを頂きながら、仕事に精進していきたいと思っております。

つくしっ子ニュース！Ⅱ 令和2年度 永年勤続表彰者

和歌山乳児院

40年	森 下 宣 明				
30年	宮 崎 裕 子				
15年	朝 間 素 美	和 田 由 利 子			
5年	中 島 優 奈	丸 本 米 久 美	瀧 谷 千 賀	栗 山 佳 央 理	
	下 津 瑞 穂	鈴 本 奈 津 美	的 場 公 美		

和歌山つくし・医療センター

40年	林 龍 太 郎	小 西 守 美 子	山 本 容 子		
20年	岩 橋 秀 展	池 本 久 男			
15年	月 野 隆 一				
10年	清 水 由 紀 夫	高 場 奈 津 子	飯 田 康 人	吉 福 千 恵	
	山 田 薫	竹 下 佳 奈 子	小 野 木 達 也	烏 川 麻 祐	
	曲 里 育 真	中 西 敏 之	峯 本 雄 貴	冷 水 佐 衣	
	出 口 丈 子				
5年	木 村 圭 吾	濱 口 淳	宇 田 真 由 美	角 友 紀 子	
	峯 本 晃 子	丸 山 か お り	尾 崎 早 苗	宇 田 恒 久	
	東 優 太 朗	高 岡 洋 子	益 田 智 美	矢 出 由 美	
	奥 田 明 日 香				

広瀬幼保園

30年	橋 爪 靖 子				
10年	保 田 麻 梨 子	柏 木 千 佳 子	吉 村 知 晃	松 本 恵 実	
5年	松 本 真 樹	浦 野 悠	花 光 都 茂 子		

つくし幼保園

45年	岡 孝 江
30年	前 田 典 子
5年	飯 田 孝 美

つくしの里こども園

5年	山 本 晴 菜
----	---------



永年勤続表彰30年 未来へ (人・宝・笑顔)

広瀬 幼保園

保育教諭 橋爪 靖子

最初に新型コロナウイルスのために、色々と力を出して関わって頂いている医療従事者の皆様に、感謝と敬意を申し上げます。

私は、保育教諭として日々、子ども達の笑顔を大切に保育しています。子どもの笑顔って素敵で可愛い宝物です。大人も昔は、子供でした。人生の中で様々な経験を重ねて大人は、少しずつ笑顔が減ったのかなと思います。子ども時代の色々な経験(喜怒哀楽)があります。その人によって様々です。その色々な経験が人生において大切な経験で、色々な場面において、教訓にもなっているので私は感じています。

子ども達の前や保護者の前では、出来る限り笑顔で対応する様に心がけています。時には、「頑張ってるね」と言う気持ちや「今日も一日お疲れ様」と思う気持ちで私なりの笑顔で対応しています。相手は私の笑顔をどのように受け取っているのかと不安に思う事もあります。しかし笑顔で接する事で、相手の方も元気になってもらえれば良いと考えました。

以前卒園児から頂いたメッセージの中で、「先生の笑顔、大好き」と書かれていました。思わず、涙があふれ出ました。また保護者の方からも、たくさんの温かいメッセージも頂き、その時気付いた事は、笑顔は、人を幸せにする宝だと思いました。人生色々だと思えます。良い事ばかりではなく、辛い事もあり涙を流す事もあると思えます。そのような時には、涙をいっぱい流して人生をリセットし、元気な未来へ進む勇気をもつ事が大切だと思えます。

私にも色々ありました。その時、身近な知人や友人、家族に助けてもらったり、励ましてもらったりして元気になりました。言葉では足りないぐらい感謝しています。

また知人には、人生五訓を教えて頂きました。人生五訓とは、「焦るな、怒るな、威張るな、腐るな、怠るな」でした。そして人は一人では生きられない、支え合う事が幸せ、自分「が」ではなく自分「は」を、その中で自分の一番の笑顔を皆に送る日々で過ごせば、幸せは自然と回りに付いてくると教えていただきました。

私は、まだまだ未熟者です。働いた年数だけは長いです、日々勉強です。つくし会の広瀬幼保園で、毎日可愛い子ども達の笑顔の中で、仕事が出来ること感謝します。また出会えた先輩方や後輩にも、私を支えて頂き感謝します。

今後、未来に向けて、相手の事を思いやり、笑顔で日々感謝する事を忘れずに、生きれば、道は開いていくと思います。

子どもの素敵な笑顔や気持ちは、これからも、ずっと大事な大事な宝物、大切に育てて素敵な花を咲かせていきたい。

つくしっ子ニュース！Ⅲ 新・「手話サークル」始動のお報せ！

多機能型福祉事業所管理者の濱田拓也さんの「手話サークル」が4月より再スタートします！最近TVニュースや、国会、裁判所などで手話の同時通訳が以前よりよく見られるようになりました。日本でも今期国会から参院のインターネット配信には手話通訳がつけられることになっています。

つくし会の利用者さんの中にも手話を使われる方がいらっしゃいます。手話を使ってのコミュニケーションで内外に新しい世界を開いてみませんか？参加希望者は濱田拓也さんまでお知らせください。

2021年4月より 第2、第4金曜日（予定） 18時30分より
地域交流室にて 初心者クラス
講師 濱田拓也

つくしっ子ニュース！Ⅳ 迷い猫の「ちび」その後

前回の「つくしっ子ニュース」に掲載されました、つくし幼保園の保育士さんの車のボンネットで見つかった迷い猫のちびは、その後引き取り手や有力な情報もなく、園長先生のおうちで居候を決め込んでおりました。幸い、先輩ネコのミー子が我が子のように可愛がってくれ、ちびは我がままいっぱい、幸せな日々を過ごしておりました。

しかしその後、予期せぬ悲しいことが起こったのです！何と、先輩ミー子が病気のため急逝してしまっただけです！14年間をミー子と共に過ごした園長先生の悲しみは大変大きかったのですが、ちびの存在がそれをなぐさめてくれることになりました。これは神様の采配だったのでしょうか？

現在ちびは「2代目ミー子」を襲名し、相変わらずのいたずらっ子ですが、すくすくと成長しているそうです。



おまけ！

つくしっ子ミニ歴史・海外も見てみよう！

前述の「ヨーロッパ中世のペスト流行時」にイタリアの文豪ボッカチオが有名な「デカメロン」を執筆しました。1348年から1353年の間に執筆されたこの談話集は、街中でのペスト流行中に男女10人が病気を避けるためにフィレンツェ山中の別荘に引きこもり、一人ひとりが色々な話をするというもので、ユーモラスな失敗談や恋愛談100話からなっています。

当時の「ステイホーム」ともいべき状況で、内容については奇想天外、その舞台はヨーロッパから中央アジア、アフリカの国々にまで及び、驚くべき描写も多くあります。

例えば、当時のヨーロッパのある街では「アパートの上階などの庶民の家屋の中にトイレがなく、壺の中身が溜まったら窓から沿道にぶちまけていたので、道を歩く人々は上から落ちてくるものが、自分の身にかからないように気を付けていなければならなかった」など。沿道はさぞ恐るべき状況であったことでしょう。

現在でもイタリアでは「バルゼレッタ」といって、友人たちと囲む夕食後のテーブルで一人が話し始めると、、、普段は人の話を聞くのが苦手なイタリア人もこの時ばかりは興味津々で聞き入ります。

一つひとつの話は結構ドラマチックで落ちがあり、日本の小咄の形式にも少し似ているようです。

ペストによって当時ヨーロッパの総人口の3分の1以上の人々が死亡したと言われていますが、そのためヨーロッパ社会の構造そのものも大きく変わりました。例えばイギリスでは労働力不足に陥り、主要産業が穀物栽培から羊の放牧へ移行、またヨーロッパの公用語だったラテン語を話す階層の人々も多く亡くなったので、それ以来公用語がより話しやすい英語に変わったという説も。

ヴェネツィア共和国ではペスト対策として海上検疫が行われました。現在の英語で検疫のことを《quarantine》と言いますが、これは当時の検疫期間が40日だったので、イタリア語の《40》を意味する《quaranta》「クウアランタ」から発生したものです。

編集後記

「つくしジャーナル」第2号に記事のご協力を有難うございました。色々な分野の方々からの寄稿は和歌山つくし会のアーカイブに保管されるべく大変貴重なものがあります。皆様、つくしジャーナルの第3号への投稿は如何でしょうか？

つくしジャーナル第3号2021年9月1日発行予定 特集（予定）「私の仕事への想い」お仕事上の事、プライベートで、人生哲学で。1,000字まで、何でも自由な形式でお書きください。「つくしっ子ニュース！」の記事も募集しております。身近に起きたこと、楽しかったこと、笑えたこと、悲しかったこと、、、。何でもお知らせください。500字まで。写真もOKです。締め切り2021年7月20日頃。

つくしジャーナル編集部